

宇都宮市立東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」の質問については、肯定割合が100%であり、家庭での朝食の重要性が浸透していることが分かる。

○「自分には良いところがあると思う」「学校に行くのは楽しいと思う」の肯定割合はそれぞれ80.7%、90.3%であり、国の平均と比べても上回っている。このことから、本校の児童は自己肯定感が高く、安心して学校生活を送れていることが分かる。

○「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」「家で自分で計画を立てて勉強している」の肯定割合は、それぞれ93.5%、80.7%であり、国の平均よりも6ポイント以上高い。このことから、自分で計画を立てるとともにそれを継続してやり遂げることが出来ていると考えられる。また、「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したこと守っている」と肯定割合が国の平均を上回っていることからメリハリをつけた行動ができていると思われる。

○「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」の肯定割合が100%であり、タブレットの活用にも非常に意欲的である。この意欲をもとに、これからの時代には必要不可欠であるICT機器の便利さや活用方法を習得させるとともに、使い方のルールを認識・徹底させたい。

○国語の教科については、「国語が好きである」「国語の勉強は大切である」「学習したことは将来役に立つ」など、肯定割合がすべての項目で県の平均を上回った。本校児童は国語の学習の重要性を理解していると考えられる。また、「国語の授業で言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている」「国語の授業で目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている」「国語の授業で目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしている」の肯定割合もそれぞれ県の平均を上回っている。国語の授業の中で、児童が自分の考えを持ち、積極的に理由を発言できるような発問を示しながら自分の意見を話したり書いたりする機会を意図的に設けたり、文章を読むときには段落のつながりを意識して読めるように働きかけを行っていく。

●「自分には良いところがあると思う」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と答えた児童が多い反面、「将来の夢や目標を持っているか」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦しているか」の質問に対して肯定割合がそれぞれ74.2%、58%と県の平均よりも大きく下回っている傾向にあった。自分の良いところを認め、伸ばしながらいろいろなことにチャレンジさせ成功体験を積みせるとともにキャリア教育を通して自分の夢や目標を少しでも持てるような指導を行っていく。

宇都宮市立東小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
①主体的に取り組み、共に学び、楽しく分かる授業づくり ②思考力・表現力を伸ばし、高める指導の工夫 ③基本的学習態度と基礎・基本の確実な定着	①ICTや教材・教具の活用と児童の問いを生かす工夫 ②主体的に取り組み、協働的に学び合う授業の推進 ③学業指導の充実と各教科の知識・技能の確実な定着	・児童質問紙「国語の勉強は好きですか」について、肯定割合は67.8%であり、県の平均を6.3ポイント上回っている。また、「算数の勉強は好きですか」について、肯定割合は77.4%であり、県の平均を10ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語も算数も、「知識・技能」「思考・判断・表現」のいずれの観点でも県の平均を下回っている。 ・国語の「短答式」「記述式」の問題では、県の平均をいずれも5ポイント以上下回っている。	・基礎・基本の定着を図りつつ、思考・判断・表現の力を身に付けさせる。 ・自分の考えをもち、表現できるようにする。	・知識及び技能と、思考力・判断力・表現力の両方の力を身に付けさせるために、目的意識をもって学習に取り組めるように工夫していく。また、単元を構成する際に、児童が明確な目的をもって学習することで、意欲の向上を図る。 ・自分の考えをもち、表現できるようにするために、授業では自分の立場を明確にして、その理由をペアやグループなどで共有したり、クラス全体で話し合ったりするなど、他者との対話を通して表現力を伸ばしていく。